

**《研究成果の概要》**

ハワイに到着した9月下旬から1月中旬にかけては、日英語のポライトネスに関する基礎研究として、主に文献調査に取り組んだ。図書館に所蔵されている豊富な数の専門書やジャーナルの講読を通じて、語用論およびポライトネス理論に関する最新の研究動向を把握することができた。また、英語教育への応用を視野に入れた現地での調査に向け、事前準備も進めた。

1月中旬からは、アジア言語学科にて開講された大学院のゼミナールに出席し、日本語の終助詞に関する諸研究を社会言語学的な視点から検証した。このテーマは日本語のポライトネスとも関わっており、これまで扱うことのなかった概念やトピックについても、ゼミナール内でディスカッションを重ねることで新たな知見を得ることができた。

当初の予定では、5月中旬までゼミナールに参加しながら、所属学科の大学院を拠点に自身の研究のための調査を進める予定だったが、新型コロナウイルスによる感染症の拡大のため、3月頭にハワイ州全体がロックダウンとなり、キャンパスが閉鎖されたことで、研究計画の変更を余儀なくされた。文献調査は電子ブックまたは電子ジャーナルで入手可能なものに絞り、インタビュー調査をオンラインでのアンケート形式に切り替えて実施することにしたが、現地のコロナ禍の状況に改善が見られず、研究面・生活面双方において支障が生じたため、6月上旬に緊急帰国をする運びとなった。